

本会元理事長の山田勝芳東北大学名誉教授殿の著書
「溥儀の忠臣・工藤忠」（朝日新聞出版）が、2010年11月に
「第22回アジア・太平洋賞」にて特別賞を受賞されました。
これを記念し、一般公開講演会を企画いたしました。
皆様お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ちいたします。

溥儀の忠臣・工藤忠と 20世紀前半の激動

— 辛亥革命100年、満洲事変80年の年に東北アジア近代史を考える —

今年、二〇一一年は、二二〇〇年余にわたる皇帝支配に終わりを告げた一九一一年一〇月一〇日勃発の辛亥革命から一〇〇年、そして日本の満洲侵略が開始された一九三一年九月一八日の「柳條湖（溝）事件」から八〇年という、大きな節目の年にあたります。

今年の夏以降は、東北アジアに関わる日本人は、たとえ一旅行者であつても、このことに対して無理解であつてはいけません。しかも、二〇世紀前半の東北アジアの激動期に関しては、日本・中国・朝鮮半島などにおいて歴史理解の差も大きい現状にあります。それだけに、歴史の具体相の究明を絶えず行つていく必要があります。幸い、内外で新たな資料も得られてきていて、考えられる幅が広がってきました。

これら内外の諸状況に対して、この時代を駆け抜けた工藤忠（一八八二年～一九六五年）という人物を切り口として、この二〇世紀前半の東北アジア近代という難しい時代を考えてみたいと思います。

因みに工藤忠は青森県板柳町出身で、初めの名前を工藤鉄三郎といい、一九三二年に満洲国執政溥儀から「忠」名を与えられ、一九三五年に戸籍上も「忠」名としました。工藤は、第二革命、第三革命に直接関わり、復辟派としての活動も行い、張作霖事件の真相をいち早く政府中枢に伝え、さらに満洲事変後に天津からの溥儀連れだしに関わり、建国後の満洲国執政・皇帝溥儀に忠臣として仕え、また一九四二年五月に頭山満をトップとする五二名の署名を添えて中国との和平を目指した建白書を東條英機に出した人物です。

これだけ多くの重要事件に関わつた人物はそうはいません。

工藤忠に焦点を当てることは、狭い切り口に過ぎないかも知れませんが、私は、この時代の歴史理解に十分に寄与しようと考えています。

講師／山田勝芳

著書「溥儀の忠臣・工藤忠」（朝日新聞出版）第22回アジア・太平洋賞 特別賞受賞
（東北大学名誉教授、東北アジア学術交流懇話会元理事長）

日時：2011年6月24日（金） 16:00～17:30

場所：東北大学 東京分室

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7番12号サピアタワー 10階（JR 東京駅の日本橋口に直結しているビル）
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/somu/bun/bun.html>

⚠ 事前予約受付致します ⚠

※当日参加も可

【ご予約・お問合せ】 東北大学東北アジア研究センター内東北アジア学術交流懇話会 事務局 岩山
Tel. 022-795-6081 E-mail: iwayama@cneas.tohoku.ac.jp